

第6回「法テラスの在り方に関する有識者検討会」

「今後の法テラスの在り方について～司法アクセスの公共インフラを目指して～」意見書
委員 猪之鼻久美子

1. はじめに

法テラスの基本理念は、「あまねく、法による紛争解決に必要な情報やサービスを受けられる社会の実現」であり、「すべての人と司法を結ぶ架け橋」、「あなたと司法の架け橋（法テラスビジョン2035）」という根本的な目的が揺らぐことはない。

一方で、社会経済情勢の変化にあわせて、市民が抱える「法的課題」を掘り起こし、法律専門職等へ切れ目なく適切に繋ぎ、権利の実現と生活再建を関係機関と協働して支える「司法アクセスの公共インフラ」として、持続可能な組織へ進化していくことが、今後の法テラスの在り方として求められている。

そこで、法テラスは「市民のためのもの」とであるという視点に立ち、新たな在り方を実現するための取組について述べたい。

2. 「最後の砦」ではなく「最初の入口」としての法テラス

社会課題の複雑化、多様化が進む現代において、司法アクセスは、情報提供や法律相談援助、代理援助・書類等作成援助の実施だけで実現できるものではない。「法テラスビジョン2035」にも「法を身近に」とあるとおり、市民が自らの抱える問題に法的な課題があることに気づき、相談窓口につながり、解決方法を主体的に選択し、権利回復に至るまでの過程が円滑に機能して初めて、司法アクセスが実現されたと評価できる。

また、法律専門職の都市部偏在、担い手不足による司法過疎地域の司法アクセス障害の軽減、解消が図られなければ、市民のための司法アクセスが保障されたとはいえない。

法テラスが、「司法アクセスの公共インフラ」として、「最初の入口」となり充実した司法アクセスを実現するためには、「届ける支援」「多元的なネットワークの構築」「利用しやすい民事法律扶助」等の具体的な取組が必要である。

3. 「届ける支援」へ

法的な支援を必要とする人ほど、自ら問題を整理し、相談先を探し、必要書類を準備して窓口を訪れることが困難である。高齢、障害、生活困窮、DV・虐待、社会的孤立、言語上の障壁その他の事情を抱える人については、本人からの申出を待つだけでは支援につながらない。

これまでも法テラスは、自治体、社会福祉協議会、地域包括支援センター、消費生活センター、医療機関、居住支援機関、学校、福祉事業所その他の関係機関と連携関係を構築し、司法ソーシャルワークを実践してきたが、より恒常的な多機関連携が求められている。また、出張相談、ケース会議への参加その他のアウトリーチを平時から実施する必要がある。

そして、そのためには、スタッフ弁護士だけで全てを担うのではなく、地元の弁護士会及び司法書士会双方へ協力を要請し、全体での協議の場を持ち、人員の交流と担い手確保を図り、積極的にアウトリーチによる支援を行い、どこかの窓口に相談しても、適切な支援に確実に引き継ぐことができる体制を構築する必要がある。とくに、司法過疎地やスタッフ弁護士が不在の地方事務所においては、地元の弁護士会に留まらず司法書士会との協力連携は不可欠である。支援する側が、利用者の視点に立ち、多くの専門職や機関と広く連携してアウトリーチの支援の輪を繋げていくという取組が求められている。

4. 多元的な専門職ネットワーク構築へ

総合法律支援法では、裁判制度の利用を容易にするとともに、弁護士だけでなく、司法書士その他の隣接法律専門職者のサービスを身近に受けられるようにすることを目的に掲げている。また、民事・刑事を問わず全国で必要な情報及びサービスを受けられる社会の実現のため、国、地方公共団体、弁護士会、日本弁護士連合会、日本司法書士会連合会、隣接法律専門職者、高齢者・障害者支援団体等の連携の確保強化が明記されている。

その中において司法書士は、登記、供託、裁判所提出書類作成、簡裁訴訟代理等関係業務その他の法律事務の専門家として、国民の権利を擁護し、自由かつ公正な社会の形成に寄与する使命を負っており、法律相談援助、代理援助、書類等作成援助の支援者として位置づけられる。

法テラスが、支援者を十分に活用するためには、司法アクセスの入口となる「情報提供業務」において、利用者が抱えている問題や地域の法律専門職の現状及び業務範囲を踏まえ、司法書士、弁護士その他の専門職に適切に配転する仕組みを整備する必要がある。また、「情報提供業務」では、迅速に相談に繋げる「予約窓口」としての機能とあわせて、利用者が主体的に解決方法を選択するための「情報提供窓口」の機能も重要であり、両方の機能を活用し多元的な専門職のネットワークへ繋げることが利用者の納得度に繋がる。

そして、情報提供業務から相談へ適切に配転するためには、まず、裁判所提出書類の作成を通じて本人申立て、本人訴訟を支援してきた司法書士業務の特色を理解するための司法書士会と法テラスの研修や交流の場を設けていただきたい。また、利用者による代理援助と書類等作成援助の選択の前提となる相談についても、民事法律扶助の対象に含め、相談から解決まで切れ目なく利用できるようにし、利用者の経済的負担の軽減を図っていただきたい。

この点は、予算の抑制と必要な事業への予算配分にも繋がると考えている。くわえて、各地の司法書士会との連携を進め、司法書士総合相談センターを地域における法テラスの協働拠点として活用し、司法過疎が進む地域での司法アクセス障害の逓減、解消に繋げていただきたい。

日本司法書士会連合会や司法書士会は、これらの提案を具現化し、司法書士が総合法律支援法を支える一員として責任を果たせるよう、研修の充実や、司法過疎地における事務所開業支援策等の司法過疎対策事業の拡充を図ることが求められると考えている。

5. 利用しやすい民事法律扶助へ

現在の民事法律扶助は、法律相談援助と代理援助、書類等作成援助であり、法律相談援助の時間制限や同一事件の利用回数制限、利用者の償還義務がある。そのため、生活困窮状態にある人にとっては、心理的、経済的な負担となり制度の利用をためらわせる要因となっていることから、次の提案をしたい。

ひとつには、法律専門職へのアクセスの拡充が考えられる。法テラスは、相談の入口を広くしたうえで、抱えている問題が「法的課題」にあたるかどうか主体的に気づく場を提供し、その後適切な代理援助、書類等作成援助を行い、福祉機関等への支援に繋げていくことが求められている。また、法律相談援助については、増加傾向にある家族間の紛争、DV 事案等の内容の複雑化に応じて時間や回数の柔軟な運用も一考に値する。くわえて、法テラスが保有する情報及び本人の同意を得て確認できる公的情報に基づき、一定の要件を満たす場合の償還猶予又は免除を自動的に判断する仕組みや、住居の喪失、強制執行、DV・虐待その他緊急性の高い案件、相続放棄の期間制限のある事案の暫定的な援助開始等、早急に手続きを行う運用も考えられる。

なお、将来的には、給付制度も利用しやすい法律扶助の検討課題のひとつであるが、そのためには、適切な予算の確保等が必要になってくると考えている。

6. 紛争予防へのアプローチ

司法書士の実務から見ると、市民の権利を守るために重要なことは、紛争が生じた後の訴訟対応だけではない。相続、空き家問題、成年後見・任意後見、借金、消費者被害、養育費その他の問題については、早期に法的な助言を受け、適切な手続きを行うことによって将来の紛争を防止できる場合も多い。

また、法テラスビジョン 2035 でも、トラブルの未然防止、必要な情報の提供、ワンストップ型の支援、地域の法的ニーズへの積極的なアプローチを掲げているところ、法テラスの業務を「発生した紛争への対応」に限定せず、法教育、市民向け講座を通じた早期支援による「紛争予防へのアプローチ」に繋げていくことも考えられる。

司法書士は、相続、成年後見、居住の安定その他生活の基盤に関わる手続きを利用することが難しい当事者に対し、地域包括支援センター等と連携し、アウトリーチを実践してきた。また、市民向けの各種講座や法律教室を通じて、例えば、相続における遺言、成年後見制度や任意後見制度の活用、消費者被害の実例等の必要な情報を提供することにより、紛争を未然に防止することに寄与してきた。これらの活動は、紛争の未然防止など訴訟経済的側面からも有用であると考えているが、このような取組は他の隣接法律専門職者も行っており、特に司法過疎地においてより有用であると考えことから、多様な専門職との連携や活用を促す取組を進めていただきたい。

7. デジタル化と司法アクセス

オンライン予約、ウェブ相談、必要書類の電子提出、相談履歴等のデータの適切な共有そ

の他のデジタル化は、時間的・地理的制約を軽減する上で有効である。

一方で、高齢者、障害者、生活困窮者その他デジタル機器の利用が困難な人ほど、法的支援の必要性が高い。法テラスの相談業務においては、「デジタル・オンリー」ではなく、デジタルと対面支援の双方を当面保障する必要がある。また、オンライン手続の導入にあたっては、入力補助、端末利用支援、やさしい日本語や多言語対応、手話その他の情報保障の整備を充実させなければならない。日本司法書士会連合会は、民事裁判のデジタル化に伴い「本人サポート」による支援を行っているが、利用者の視点に立ち、法律扶助の入口を広くしておくことが「司法アクセスの公共インフラ」としても重要である。

8. 持続可能な組織に向けて

持続可能な組織とするためには、スタッフ弁護士、業務に従事する弁護士・司法書士その他の専門職の人員確保と職員等の適正配置、業務のスキルアップ、代理援助・書類等作成援助業務に注力するための事務負担の軽減、費用・報酬の適正化の検証が必要である。

人員確保は、法律専門職の都市部偏在により、現状からの急な変化は望めないが、地元の弁護士会及び司法書士会との連携による確保、外部の弁護士、司法書士の活用が有用であることは、これまでも縷々述べてきたとおりである。また、職員等の適正配置、業務のスキルアップには、研修の充実が不可欠であるが、「愛知県モデル」で示した司法書士による研修は、業務の理解を促進し顔の見える関係が深まる機会となる。次に、事務負担の軽減は、全国的な様式の平準化、統一による手続きのデジタル化、ウェブ会議による移動負担の軽減により実施が可能である。そして、これまでの検討会でも意見がだされてきた費用・報酬については、定期的な検証と改定が必要であると認識する一方、国の予算で運営され中立公正、透明性の高い組織体であることから、民間と同様ではなく、予算抑制の視点を持ちつつ検討しなければならないと考えている。

なお、再三申し上げてきたとおり、書類等作成援助の活用は、利用者の負担軽減、民事法律扶助予算の有効的な活用の観点からも有益であり積極的な推進をお願いしたい。

9. 結びに

今後の法テラスは、支援を求めて窓口まで来ることができた人だけを対象とするのではなく、法的な問題を抱えながらも声を上げることのできない人に寄り添い、必要な支援を届け、隠れている生活困窮や福祉的な課題解決まで切れ目なく繋ぐことのできる「司法アクセスのインフラ」を目指すべきである。

そして、司法書士は、司法アクセスのインフラの一翼を担っていけるよう、司法書士会やこれまでも連携協力をしてきた多くの関係機関及び関係団体とともに、利用者の視点に立ち、利用者に寄り添い、地域に根差し、法テラスの充実発展のために尽力することをお約束し、意見とさせていただきます。

以上

1. 「届ける支援」へ

- ・様々な事情で声を上げにくい人にも支援を届けるアウトリーチの強化
- ・多機関連携の恒常化
(自治体、福祉機関、医療機関、学校等)
- ・出張相談、ケース会議への参加等を平時から実施



支援が届きにくい人の例



法テラスの目指す姿 ～司法アクセスの公共インフラへ～

「あまねく、法による紛争解決に必要な
情報やサービスを受けられる社会の実現」

すべての人と司法を結ぶ架け橋

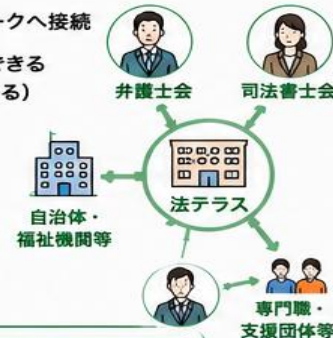


最初の入口としての法テラス

- ・気づきから解決まで切れ目なく支援
- ・いつでも、どこでも、だれでも利用しやすく
- ・多様な専門職・機関と連携し、適切につなぐ

2. 多元的な専門職ネットワーク構築へ

- ・弁護士、司法書士等の専門職を適切に配転し、多元的なネットワークへ接続
- ・相談から解決まで切れ目なく利用できる民事法律扶助へ(相談も対象に含める)
- ・司法書士総合相談センター等を地域の協働拠点として活用
- ・司法過疎地域のアクセス障害の遅減・解消へ



多元的な専門職の役割例

弁護士
訴訟代理、紛争解決等

司法書士
登記、供託、裁判所提出書類作成、
簡裁訴訟代理、書類作成援助等

3. 利用しやすい民事法律扶助へ

- 相談の入口の拡充
時間・回数の柔軟な運用
- 償還の負担軽減
(償還猶予・免除の自動判定等の仕組み)
- 緊急性の高い案件への
迅速な対応(暫定的な援助開始等)



制度の利用をためらわせる要因の軽減
心理的・経済的負担を減らし、安心して相談・利用できる仕組みへ

支援の対象となるすべての人



気づき・相談
(情報提供・相談窓口)

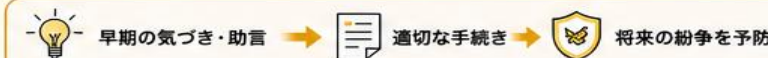
適切な支援へつなぐ

法律相談・代理援助
書類等作成援助

福祉的支援・他機関
へのつなぎ等

4. 紛争予防へのアプローチ

- ・法教育、市民向け講座等による早期支援
- ・相続、空き家、成年後見、借金、消費者被害、
養育費等の予防的支援
- ・多様な専門職との連携活用



5. デジタル化と司法アクセス

- デジタルの活用
オンライン予約・相談、電子提出、データ共有等で
時間的・地理的制約を軽減
- 多様な人への配慮
デジタルと対面支援の併存、入力補助、端末利用支援、
多言語・やさしい日本語・手話等の情報保障の充実



6. 持続可能な組織に向けて

- 人員確保
(専門職連携、外部活用等)
- 職員等の適正配置・
業務のスキルアップ
(研修制度の充実)
- 事務負担の軽減
(様式の統一・デジタル化、
ウェブ会議等)
- 費用・報酬の適正化
(定期的な検証と改定)

共通の基盤

中立・公正・透明性の確保 / 国民の信頼 / 地域に根差した支援 / 関係機関との連携強化

法テラスは、支援を必要とするすべての人に寄り添い、権利の実現と生活再建を支える「司法アクセスの公共インフラ」を目指します。